

松阪市人権問題についての 市民意識調査結果

概要版

松阪市では、平成21年度に松阪市人権施策基本方針の第一次改定を行い、人権尊重の社会を実現するため、人権尊重の視点に立った諸施策を総合的、計画的に推進しているところです。しかし、昨今の社会状況の変化を背景として、虐待（子ども、高齢者）、いじめ、DVなど深刻な人権侵害が発生しています。また、東日本大震災に伴う原発事故による放射能汚染に伴い、新たな人権問題も報告されています。このようなことから、市民の皆さんが人権問題について、どのような意識と態度をもっているかを把握するため、「松阪市人権問題についての市民意識調査」を実施いたしました。

本調査の結果は、松阪市人権施策基本方針の第二次改定及び今後の人権啓発・教育活動をより効果的に推進するための基礎資料として利用させていただきます。

この概要版は、調査結果の主要な部分を掲載させていただきましたので、地域・職場等での人権教育・啓発にご活用いただければ幸いです。



調査対象：松阪市在住の16歳以上の男女4,000人
抽出方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出法
調査期間：2012（平成24）年9月1日～9月28日

調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法
回収結果：2,167票
有効回答：1,956票（有効回答率48.9%）

2013（平成25）年3月
松 阪 市

問い合わせ先

〒515-8515 松阪市殿町1340番地1 松阪市役所生活部人権推進課
TEL: 0598-53-4017 FAX: 0598-22-1055
Eメールアドレス: jin.div@matsusaka.mie.jp

1

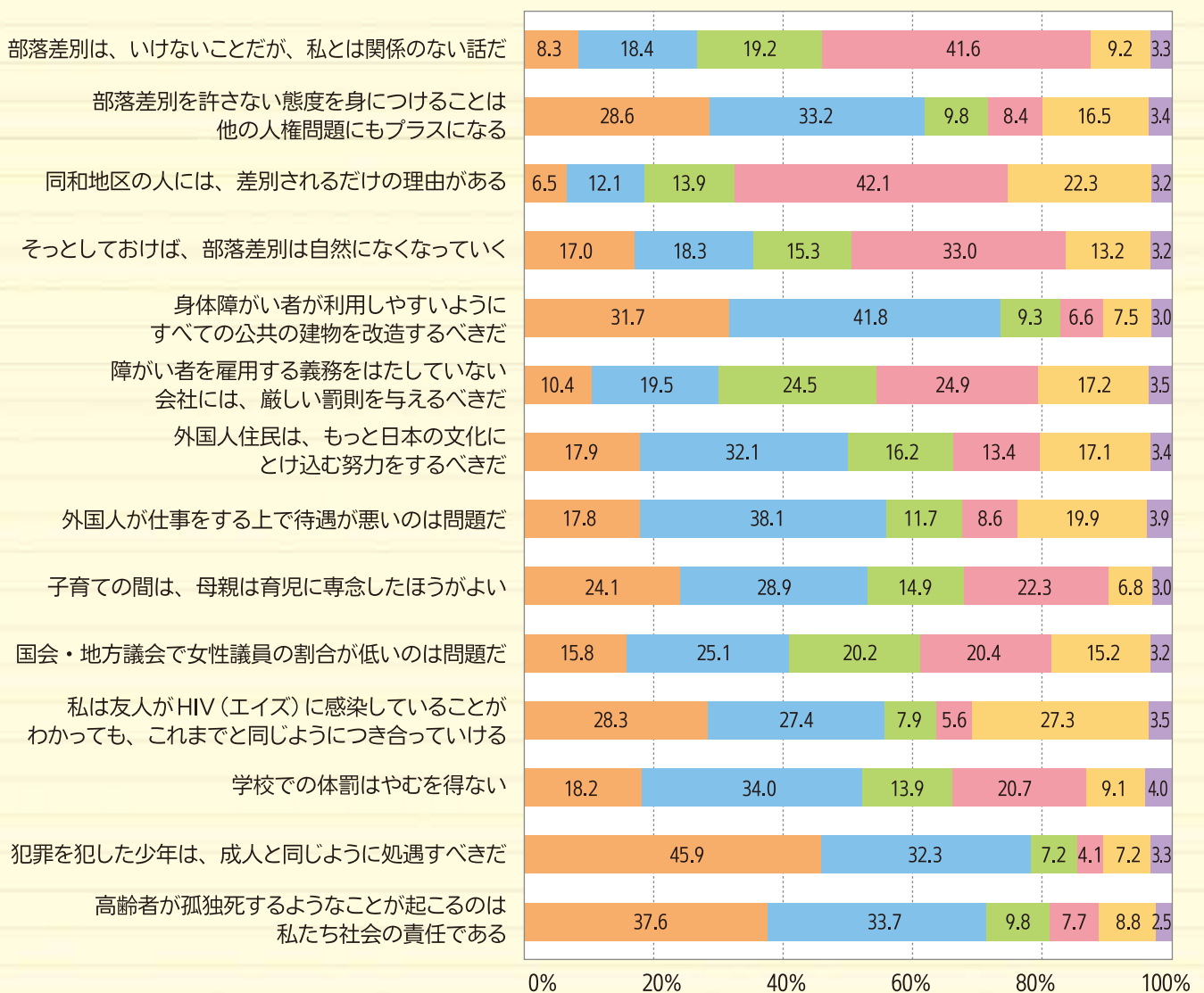
人権問題に関する意見

人権問題に対する積極的な意見として、「高齢者が孤独死するようなことが起こるのは、私たち社会の責任である」37.6%、「身体障がい者が利用しやすいように、すべての公共の建物を改造するべきだ」31.7%、「部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」28.6%などがあります。

他方、否定的な意見としては、「外国人住民は、もっと日本の文化にとけ込む努力をするべきだ」17.9%、「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」17.0%などがあります。

また、女性の人権についても「子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい」が24.1%あり、男女共同参画社会をめざしながら、女性が社会的活動を続けるには困難が大きいことが感じられ仕事と家庭の両立の条件整備が課題となっています。

人権に関する問題をめぐって、さまざまな意見があります。あなたはどのように思いますか。



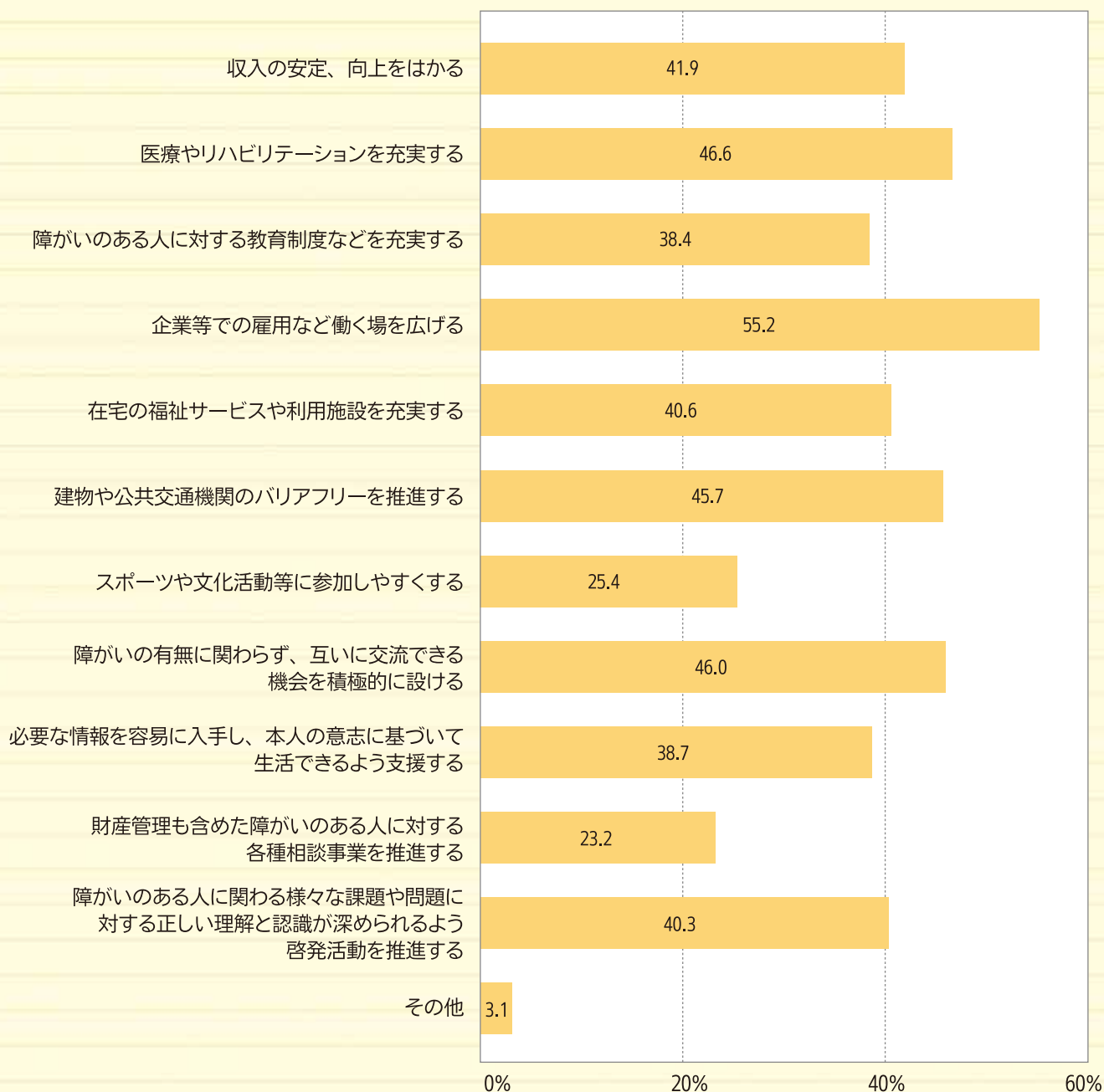
■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない
 ■ 無回答

2 障害のある人の人権

障がいのある人の人権を守るためには、「企業等での雇用など働く場を広げる」55.2%、次いで「医療やリハビリテーションを充実する」「建物や公共交通機関のバリアフリーを推進する」「障がいの有無に関わらず、互いに交流できる機会を積極的に設ける」がそれぞれ約46%となっています。

障がいのある人に対しては、雇用など働く場を広げることや医療・リハビリテーションの充実、建物や公共交通機関のバリアフリー、障がいの有無に関わらず交流できる機会が必要です。

障がいのある人の人権が守られるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

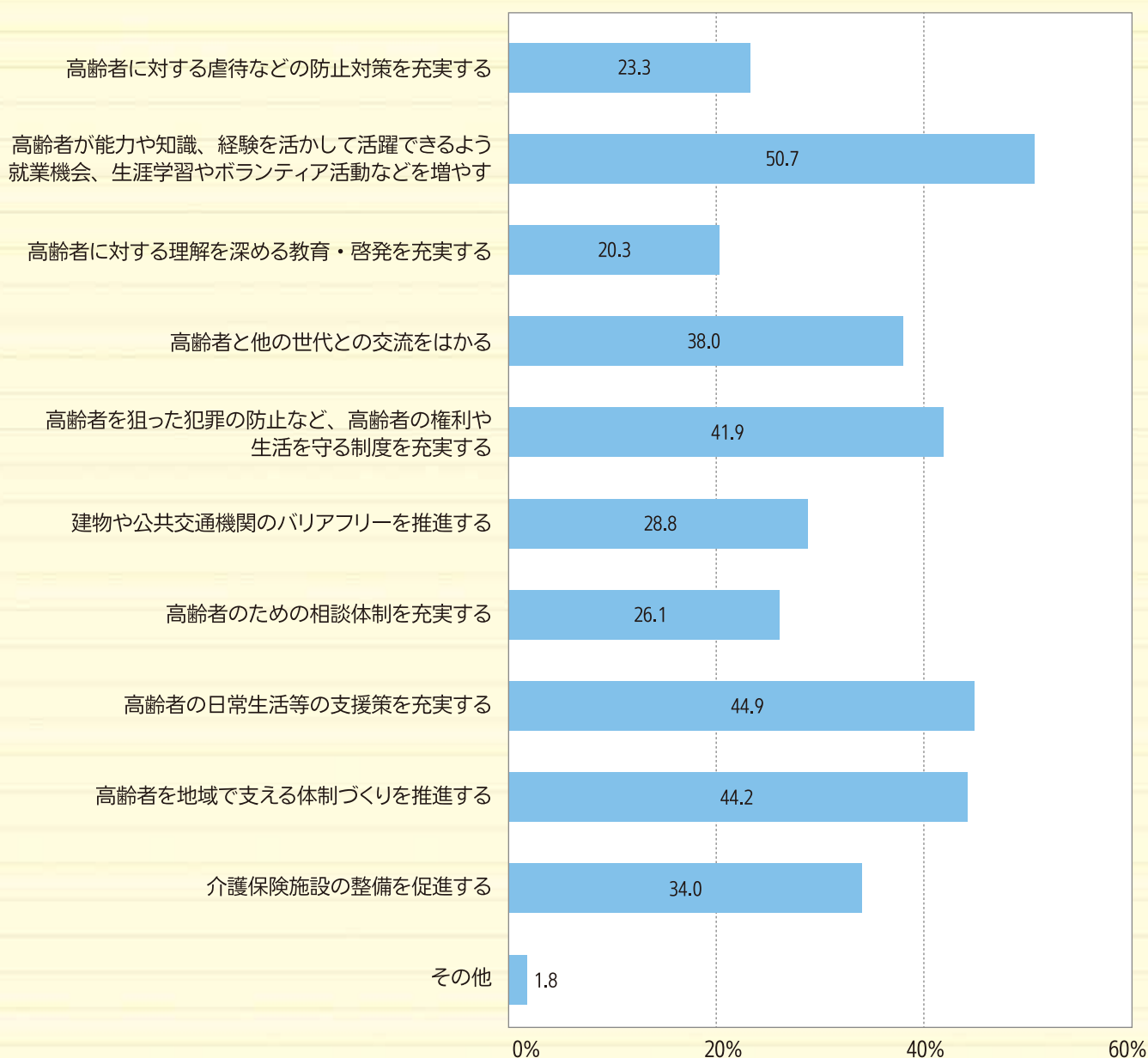


3 高齢者の人権

高齢者の人権を守るためには、「高齢者が能力や知識、経験を活かして活躍できるよう、就業機会、生涯学習やボランティア活動を増やす」「高齢者の日常生活等の支援策を充実する」「高齢者を地域で支える体制づくりを推進する」「高齢者を狙った犯罪の防止など、高齢者の権利や生活を守る制度を充実する」「高齢者と他の世代との交流をはかる」といった項目が4～5割以上となっています。

高齢者に対しては、就業機会や生涯学習・ボランティアの活動を増やすこと、高齢者の日常生活等の支援策の充実、高齢者を地域で支える体制づくりの推進が必要です。

高齢者の人権が守られるためにはどのようなことが必要だと思いますか。



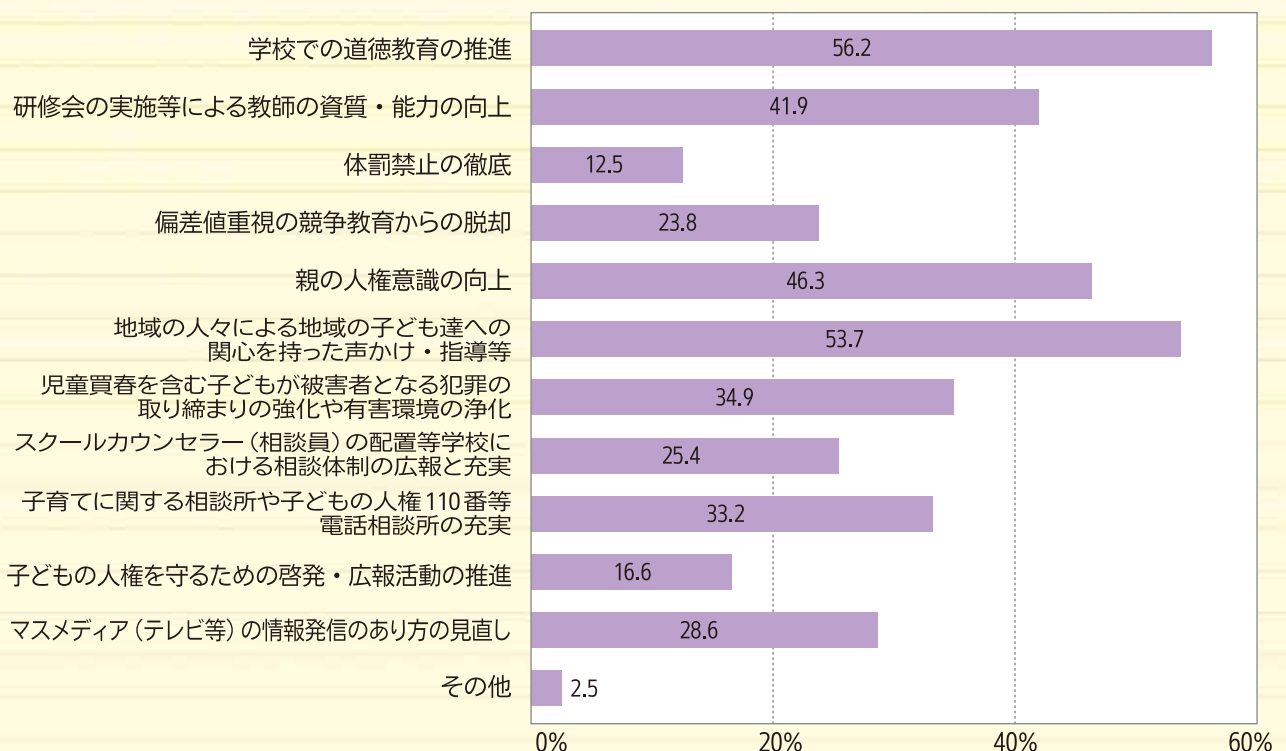
4

子どもの人権

子どもの人権を守るためには、「学校での道徳教育の推進」56.2%、「地域の人々による地域の子供達への関心を持った声かけ・指導等」53.7%が過半数を超えています。次いで「親の人権意識の向上」が46.3%、「研修会の実施等による教師の資質・能力の向上」が41.9%となっています。

子どもに対しては、道徳教育や人権教育など、子どもの人権のための教育が求められます。これは学校教育だけではなく、保護者や地域の人々の理解を深めることも大切です。

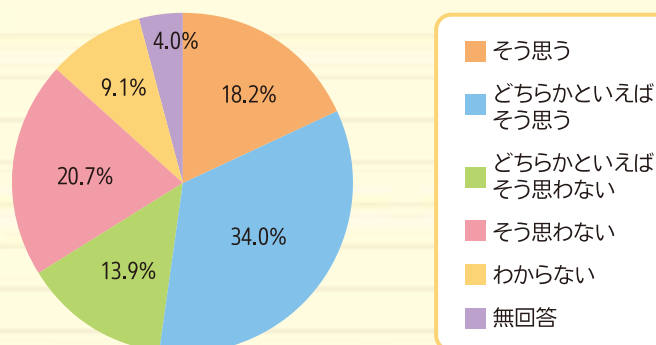
子どもの人権が守られるためにはどのようなことが必要だと思いますか。



学校での体罰はやむを得ないという意見に、「そう思う」が18.2%、「どちらかといえばそう思う」が34%と、体罰を認める考え方が5割以上もあります。

学校での体罰は、学校教育法で禁止されているものであるが、肯定者が過半数あることから、一層啓発に取り組む必要がある。

「学校での体罰はやむを得ない」という意見について、あなたはどのように思いますか



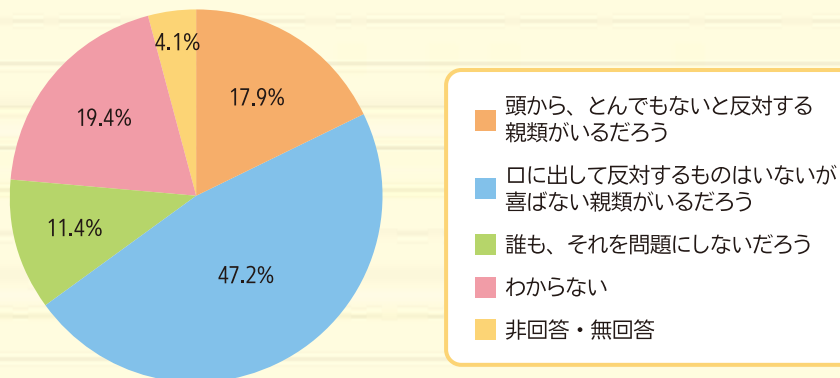
5 同和問題

親類の態度では、「頭からとんでもないと反対する親類がいるだろう」が17.9%、「口に出して反対するものはないが、喜ばない親類がいるだろう」が47.2%、「誰も、それを問題にしないだろう」が11.4%となっています。

自分の子どもが結婚したいと考えている相手が同和地区の人だとわかった場合の態度は、「まったく問題にしない」が28.5%、「迷いながらも結局は問題にしないだろう」が38.6%、「考えなおすように言う」が7.2%、「迷いながらも結局は考えなおすように言うだろう」が20.5%となっています。

部落問題は依然として深刻な重大問題であり、問題解決に向けての一層の取り組みが大きな課題となっています。

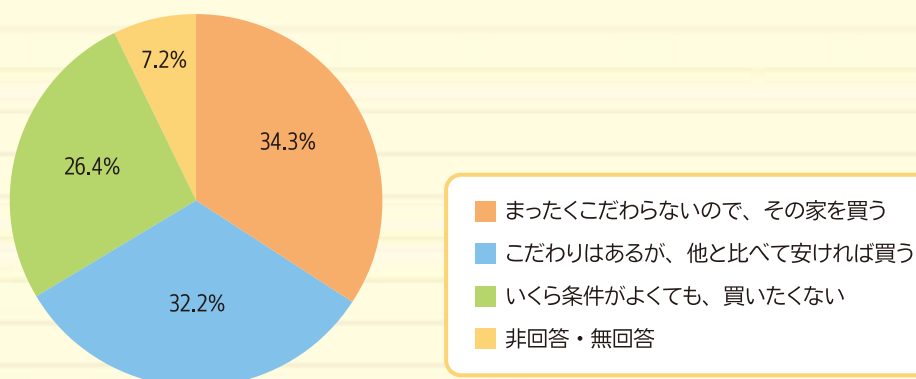
仮に、あなたのお子さんが恋愛をし、結婚したいといっている相手が同和地区の人だとわかった場合、あなたの親類はどのような態度をとると思いますか。



同和地区周辺の住宅購入の意向では、「まったくこだわらないので、その家を買う」が34.3%と1/3程度にとどまっています。この傾向は、前回、前々回の調査結果とほぼ変化はありません。(1999年30.4%、2007年35%)

一方、「いくら条件がよくても、買いたくない」という回答も26.4%であり、4人に1人は、「同和地区である」ことにこだわっていることがわかります。

仮に、あなたが住宅を探しているとします。気に入った家のすぐ近くに同和地区があり、同じ町内とわかったとしたら、あなたはどうしますか。



6

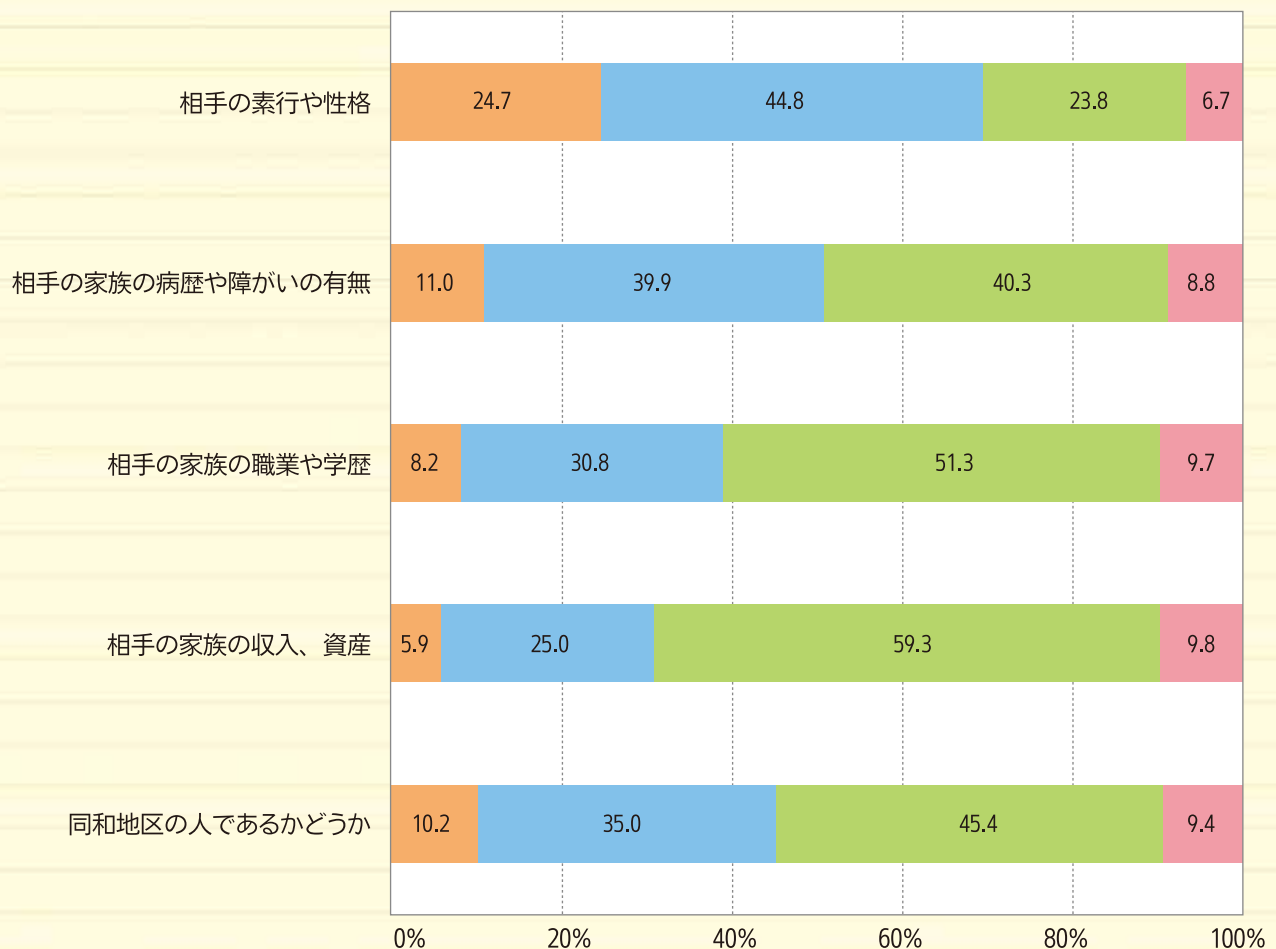
さまざまな人権問題 ①身元調査

結婚の際の身元調査として、相手の家族の「収入、資産」「職業や学歴」については「調べるべきではない」という回答が過半数を示しています。次いで「同和地区の人であるかどうか」「相手の家族の病歴や障がいの有無」を「調べるべきではない」が、それぞれ45.4%、40.3%となっています。反対に「調べるのは当然だ」「感じはよくないが必要だ」という割合は、「相手の素行や性格」が69.5%、相手の家族の「病歴や障がいの有無」「職業や学歴」「収入、資産」はそれぞれ50.9%、39%、30.9%で、「同和地区の人であるかどうか」は、45.2%となっています。

結婚（縁談）の際の身元調査に関して、「家族の病歴や障がいの有無」「同和地区の人かどうか」「相手の素行や性格」を調べるべきでないと答えた人は、5割以下にすぎません。相当数の人が、結婚差別や個人情報の侵害につながる身元調査を容認している現実があります。

このような身元調査の問題を重点的にとりあげ、啓発することは、緊急の課題といえます。

あなたの身内に結婚（縁談）話があったときに、家族が相手に気づかれないように調査をしたとすると、あなたはどのようにお感じになりますか。



■ 調べるのは当然だ ■ 感じはよくないが必要だ ■ 調べるべきではない ■ 無回答

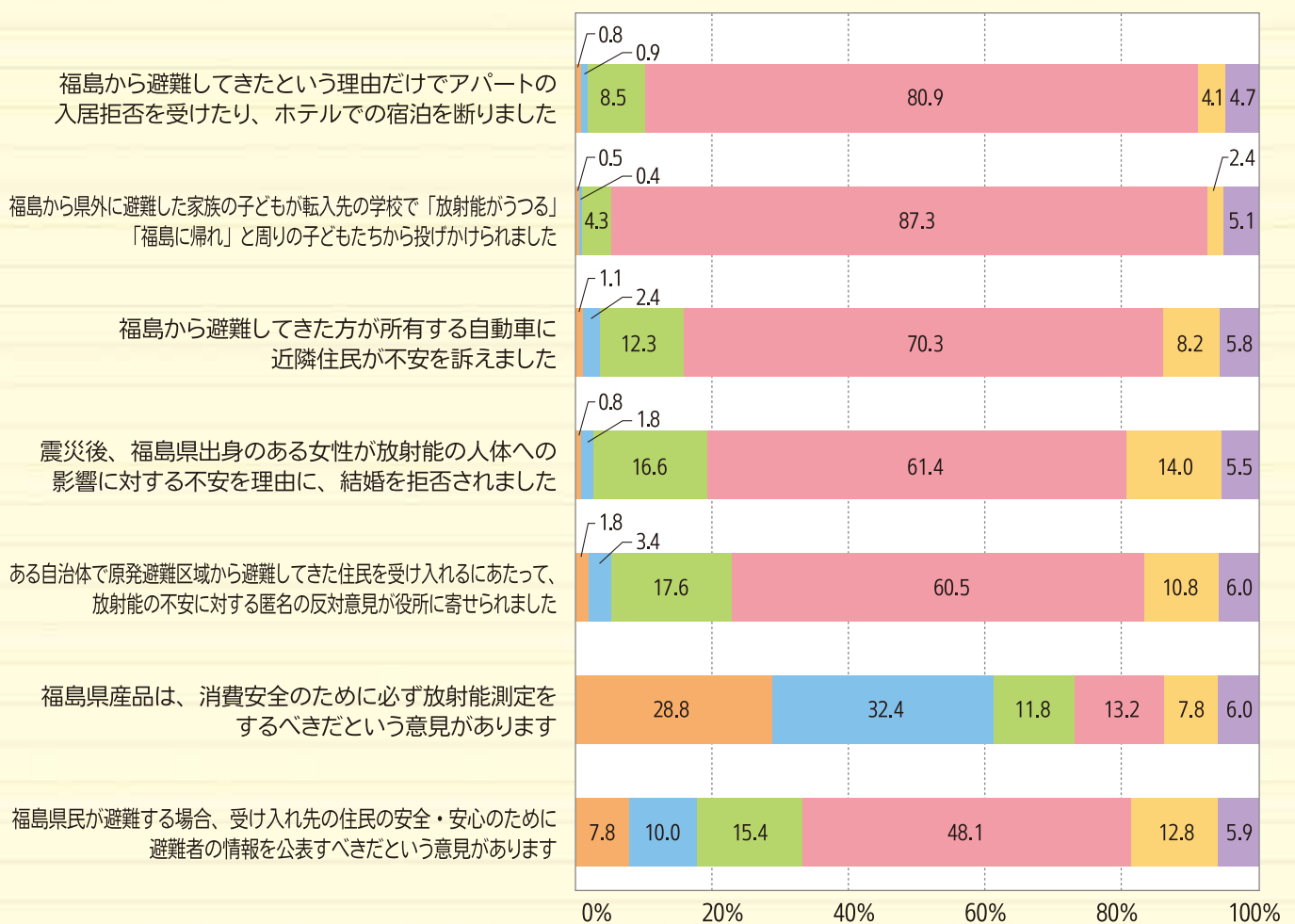
② 福島原発事故による放射能汚染と人権

人権侵害につながる考え方である「福島からの避難者の子どもに対しての罵倒」「福島からの避難者に対しての入居・宿泊拒否」「福島からの避難者が所有する自動車の不安」「放射能の人体への影響に対する福島出身女性との結婚拒否」などは、いずれも7割以上の方が反対しています。

一方、「福島県民が避難する場合、住民の安全・安心のために避難者の情報を公表すべき」という意見を肯定する人が17.8%あります。

また、「放射能の人体への影響に対する福島出身の女性との結婚拒否」という意見を肯定する人は2.6%にすぎないが、「わからない」と態度を保留している人が14%となっています。福島原発事故による放射能汚染や内部被曝に対する無知や偏見が全国各地に広がる恐れがあることから、この問題に対する教育・啓発がきわめて重要な課題となっています。

福島原子力発電所の原発事故により深刻な放射能漏れが発生し、さまざまな問題が発生しています。あなたはどのように思いますか。



■ よいと思う
 ■ どちらかといえばよいと思う
 ■ どちらかといえばよいと思わない
■ よいと思わない
 ■ わからない
 ■ 無回答